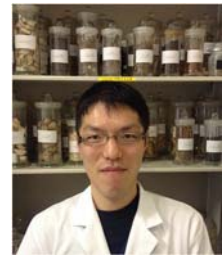


地域医療における漢方治療

飯塚病院漢方診療科 吉永 亮 (福岡県 27 期)

はじめに

現在、私は、飯塚病院漢方診療科に勤務しています。当科は、一般の医療用漢方エキス製剤のみでなく、漢方の煎じ薬も用いて、外来から入院まで一貫した漢方診療を行っている全国でも稀な施設です。私が当科で働いている理由は、地域医療での漢方治療がきっかけでした。私は義務年限中に玄界灘沖の離島にある新宮町相島診療所と大分県と熊本県との県境にある山間地の八女市矢部診療所に各々3年間勤務しました。地域医療を実践する中で、日常診療に漢方を活かしたいと定期的に当科に通い、漢方の外来研修を行いました。研修で学んだことを地域医療で実践すると、非常に有用で、地域住民の方々に喜んでもらえることから、漢方の面白さ、深甚さに魅了され、義務年限終了後は、本格的に漢方を勉強しようと現在に至り、今年の目標は、東洋医学会漢方指導医を取得することです。



私は、「地域医療における漢方治療」の経験から漢方関連の論文をいくつか報告しており、この度、本稿で皆様に紹介させていただく機会をいただき心から感謝申し上げます。

地域医療での common disease・高齢者に漢方を活用

地域医療では、農業や漁業などの第一次産業に従事する住民が多いことから、屋外作業に関連する疾患によく遭遇します。それらの疾患に対して、漢方治療を行うことで、診療の幅を広げることができ有用でした。主な疾患は、以下の3つに分類されます。

- ① 西洋医学的な対症療法では効果が不十分、
または漢方薬の併用で更なる治療効果が期待できる疾患
…急性腰痛症、尿路結石の疝痛発作、ハチ・ムカデ刺症、凍瘡など
(ハチ刺症に対する漢方治療に関しては現在論文作成中)
- ② 副作用のリスクのため長期の鎮痛剤の内服が難しい症例
…腰痛、肩痛などの筋骨格系の痛み
- ③ 西洋医学的な治療の選択肢が少ない疾患
…こむら返り、熱中症による筋けいれんと熱中症の予防⁽¹⁾⁽²⁾

また、地域医療では、高齢患者が多く、医師一人で内科に限らず複数の疾患に対応する必要があります。高齢者は老化に伴って複数の疾患や病態が併存しており、治療の焦点が絞りにくく、各々の症状に対して西洋医学的に治療すると内服薬の種類が多くなってしまいがちです。しかし、漢方薬は一つの方剤で複数の効果が期待でき、体全体のアンバランスを是正することが治療目標であることから、1種類の漢方薬で主訴以外の症状も同時に改善して、西洋医学の対症療法が不要になる症例を複数経験しました⁽³⁾。具体例を紹介すると、84歳男性で坐骨神経痛の診断で対症療法を行っていましたが、下肢の痛みと痺れが持続していました。私が赴任後、入浴で温まると痛みが軽減すること、下肢に冷えとむくみがある点などに着目して八味丸(はちみがん)を処方したところ、内服開始2ヶ月後に下肢の痛み、浮腫が軽減して立ち上がりがよくなったと言われ、NSAIDs、ビタミンB12製剤、冷湿布が不要になりました。その後も内服を継続すると患者さんから今年は冬になっても体が痒くならないと言われ、カルテを見返すと、例年冬には、皮脂欠乏性湿疹でステロイド軟膏の処方を受けていました。このように漢方薬を上手に使えば高齢者のポリファーマシーの1つの解決策になると考えます。

漢方治療はあらゆる愁訴に対応可能

地域医療の外来には、様々な愁訴をもつ患者が受診して、検査で異常がない(もしくは検査ができない!?)、または一般的治療でうまくいかない症例も存在します。西洋医学的にも治療が困難なことが多いめまいや耳鳴りが漢方治療で軽減して喜ばれる症例もありました⁽²⁾。また、診療所に勤務していると、お盆や正月などの季節の行事後の疲労や配偶者の入院や介護のストレスを契機とした介護疲れの相談を受けることがしばしばありました。そのような場合には、うつ病を発症していない限り、西洋医学的に異常を認めることは少なく、適切な治療法も少ないのが現状です。しかし、漢方医学的にその症状が出現している要因を把握して、治療を行うことで、疲労やストレスに上手く対処することが可能になりました⁽²⁾⁽⁴⁾。介護疲れに対する漢方治療のポイントを示しましたのでご参照下さい(表1)。

表1. 介護疲れに対する漢方治療のポイント

① 気力・体力が低下している

ほちゅうえつきとう
補中益気湯エキス 7.5g3X (手足がだるい・眼に力がない・声が弱い)

or

じゅうぜんだいほうとう ほちゅうえつきとう
十全大補湯エキス 7.5g3X (補中益気湯の特徴+皮膚の乾燥・脱毛が目立つ)

② ストレスからイライラしている

よくかんさん
抑肝散エキス 7.5g3X (せっかち・怒りっぽい)

or

さいこかりゅうこつぼれいとう
柴胡加龍骨牡蛎湯エキス 7.5g3X (精神不安・動悸・悪夢を伴う不眠)

また、僻地では診療所がその地区唯一の医療機関であることから、症状が改善しなくても気軽にドクターショッピングをすることは困難です。総合病院で精査しても異常がないにも関わらず数年間に渡り、2日に1回のペースで「きつい」「調子が悪い」と診療所を受診する方もいました。そのような症例であっても、漢方医学的な視点で理解と共感をして治療にあたれば、速やかに症状が改善しなくても、徐々に患者さんから笑顔がみられるようになり、不定期受診の回数が減少する症例も経験しました⁽⁶⁾。漢方という治療手段をもつことによっていわゆる「不定愁訴」は大事な漢方医学的所見となり、丁寧に粘り強く診療する姿勢を「地域医療における漢方治療」から学ぶことができました。

地域医療で漢方を勉強するメリットと今後の目標

漢方は検査や設備の整っていない診療所でも、本を読んで勉強し、日々の診療で実践することが可能です。私の漢方の師匠である当科部長の田原英一先生の師匠の師匠にあたる藤平健先生、小倉重成先生は『漢方概論』で「実地医家の醍醐味は病人の病気が全快して、心から感謝される時の、あの一瞬の、言葉では表現することのできないほどのうれしさであろう。漢方をやっていると、こういう機会が何と多いことか」と述べています。地域医療の中で、今まで治療の対象と考えられていなかった症状や、長年苦しんでいた症状が、自分が勉強して処方した漢方薬で改善した場合、患者さんの喜ぶ姿をみるのは嬉しく、私自身の地域医療のやりがいが高めることができました⁽²⁾。

現在、漢方専門外来の中で、自治医大のネットワークを通じて、近隣の自治医大卒業医師の派遣病院から一般内科外来での治療がうまくいかない症例の紹介を多く受けています。そのような一般的な治療に抵抗性の症例!?!に対して漢方治療を行うと、今まで治らなかった症状が比較的短期間で改善する症例も多くあり⁽⁶⁾、漢方治療の醍醐味を味わうと同時に地域医療での必要性を実感しています。また同時に地域医療の経験を活かして、家庭医外来・救急医療・緩和ケアチームを担当し、幅広い分野での漢方薬の活用を目指しています。今後も日本の地域医療、プライマリ・ケアに漢方は有用だと発信していけるよう漢方の勉強を続けたいと思います。

- (1) 吉永亮ら：熱中症、暑気あたりに対して漢方治療が有効であった4症例;第5回プライマリ・ケア連合学会学術大会プログラム・抄録集, 239, 2014
- (2) 吉永亮ら：離島診療所における漢方治療;日本東洋医学会雑誌, 63(1), 31-36, 2012
https://www.jstage.jst.go.jp/article/kampomed/63/1/63_31/_pdf
- (3) 吉永亮ら：漢方治療により西洋薬の減量が可能であった3症例;日本東洋医学会雑誌, 62 suppl, 269, 2011
- (4) 吉永亮ら：飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より (通算 28)『最近の治験・知見・事件!?!』パートII⑬;漢方の臨床, 61(4), 629-637, 2014
- (5) 吉永亮ら：高齢者の医学的に原因が特定できない胸腹部症状に大柴胡湯を中心とした処方が奏効した2例;日本東洋医学会雑誌, 66(1), 40-44, 2015
- (6) 吉永亮ら：飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より (通算 35)『最近の治験・知見・事件!?!』パートII⑳;漢方の臨床, 61(12), 2075-2084, 2014

!!地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集!!

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

